

## カトリック香里教会 年間第十八主日 2021年8月1日

— 出エジプト 16章・2-15、エフェソ4章 17-24、ヨハネによる福音6章 24-35 —

すると、イエスは言われた。「はっきりしておく。モーセが天からのパンをあなたがたに与えたのではなく、わたしの父が天からのまことのパンをお与えになる。神のパンは、天から降って来て、世に命を与えるものである。」

そこで、彼らが、「主よ、そのパンをいつもわたしたちにください」と言うと、イエスは言われた。「わたしが命のパンである。わたしのもとに来る者は決して飢えることがなく、わたしを信じる者は決して渴くことがない。」

-ヨハネによる福音6章-

### 信仰者の栄冠

「しるし」を見て、イエスを探して再び集まった人々が、教会に集まる私たちの姿とダブります。何の目的でイエスを尋ねたかと、今日の福音が私たちに問いかけて。腹を満たすため？ 商売繁盛のため？ オリンピックで栄冠を勝ち取るため？ イエスは私たちの心を暴きます。「あなた方は、しるしを見たからではなく、パンを食べて満腹したからだ」と。

「しるし」は目に見える超越的な偉大さを示すことで、神の「力と愛」の啓示であり、人々が、神を信じて救われるための、神の私たちへのラブコールです。

私たちの救いとは、神を探して、神とともにいることであり、この世で自分の欲望を満たすことではありません。それはイエスが言われる朽ちる食べ物のための空しい生き方に他なりません。ですから信仰者には、「いつまでもなくならないで永遠の命に至る食べ物のために働く人でありなさい」とイエスは諭します。

オリンピック競技を見ていて、なぜか、特に私の目に留まるシーンは、勝利の瞬間「雄叫び」をあげる勇ましい勝者の姿ではなく、敗者が「一瞬に」見せる表情です。人が目標をもって邁進し、目標を手にする姿は美しいですが、私が心に感じる美しい姿とは、競争で人から奪い取った者だけが栄冠を勝ち取る姿ではなく、求める誰もが手にすることが出来る栄冠です。それは、人の勝ち負けではなく、肉の世にあって、神に依り頼んだ「ひたむきな信仰」十字架を背負ったベッドの人もそこで得ることのできる信仰者の栄冠です。

神から贈られる「しるし」の中で最大の「しるし」は、私たちに、貧しい十字架をもって、もっとも完全に父なる神の愛を証しした主イエスご自身ですから、この「しるし」を確認してイエスのもとに来ることこそ「私が命のパンである。私のもとに来る者は決して飢えることがなく、私を信じる者は決して乾くことがない」お方が、私たちに栄冠を与えてくださるのです。

この栄冠を目指す競技者に選考会はなく、しるしを見てイエスのもとに来る人は誰でもあなたの生活の場が競技のスタート地点であり、ゴールになって、そこで栄冠があなたのためにイエスの手から渡されるでしょう！

2021年8月1日 主任司祭 昌川信雄

